

繪本通俗三國志
二編 四

21
221
14

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

旅
221
14

東
學
本
圖

正義

繪本通俗三國志二編卷之四

目錄

夏侯惇拔矢啖眼

呂布敗走下邳城

繪本通俗三國志二編卷之四

夏侯惇拔矢啖眼

建安三年戊寅の秋曹操南陽の戰ひよまと又河北の袁紹が都
と競ひよまるとはをき。いそぞ兵と收りて、般治ちる。諸大將皆
半途までひどひを禁裏よへて天子を拝し。うちひそ丞相府
よりれ。がおらくあく郭嘉まみう見。曹操問。ややくの你ま
にまを連衆仕た。郭嘉あくぞ曰。なほ河辺より袁紹使を廻て
書簡を送り。北平の公孫瓚を汲んと布川をよ。味方兵糧
ふ事とえねづく軍兵を合力。兵糧を借りと云ひき。曹
操ヨウのやうへとをさむ。途中ヨシ袁紹が都と競ひよま
すをきひく夜を日よほひ。總のわきうもつるよ今書簡を

送り事。事をひかへ我をもよ都々回りとをあつて。
又怖畏といひてまだ都を以て思案と止ふれども若ひまづい
う王。疑がんすと憚う王。旅りて公孫賛を以てよ丘へを借
よ糧と云きよとあれくしく云送るものからんと其の書簡を
みる。文体もと歎り放まうされば。馬をもと使を畠やむれども
又議とやらる。袁紹かくのあまく無禮とあり。馬を常々伐滅ん
こかくとも力の足ざるを患ひ。郭嘉や々々高祖項羽の戦
ひへ君のよくあらじゆああきり高祖の弱いといえども智謀と勝項
羽の強いと云ふ。計すらを。是れより高祖のたゞと減る
た。某ひもよ思ひ袁紹よ十敗あ。君よ十勝あ。袁紹が兵
いふ強くともうるべく滅びん袁紹の事を行うふと禮義と

く君の本偉自然とすをゆふ。あをと道の勝一す。袁紹へ逆とやつ
て動た君の順とあつて。天トといふあるあを義の勝二す。漢の
末の政事の寛ひと乱る袁紹の寛ひをあつて寛ぎとをふ。あを
えよ民あそれぞ君の糾きと猛きをあつてしそ。上下ミヌ制法を
ある。あを治の勝三す。袁紹の外寛と内忌人をもちゆき
も疑ひと。唯一族の内を重くもちゆ。君の外簡と内明
らる。あを用と疑がくと。才の宜をえらん。親疎と間を
あを度の勝四す。袁紹の謀事を好やぶも決断するにはじ
後悔のと多す。君の計事あれがまきうち行う。變と忘ど
まふす。あを謀の勝五す。袁紹の累世位高とと高儀
揖讓。名ある人をほと辯舌を功と外をかぎるもの多く

敝服を君の徳とあつて人を用ひ。ひふを推して虚美をうまむ。
僨とあつて下を率ひ功あるもの因心賞と否とあらば人の忠
正遠見すと實あるも。ひふを用ひらきんと頼がふ。あき徳の
勝六うす袁紹の人々飢寒たるを以て。袁憐の色あらむ
といえども目のひづがざる所。ほもあらば。あきしゆる婦人の
仁あす君の目前の小事へゆきせはして。あき事の四海をあづ
るあざよ至りて接恩の加りて。ひづ其の望みをぐ。目のあよがざる
あとじくもさとひひびこひふとほ。あき仁の勝七あす。袁紹も
大將まき權をあらもあく。魏言その主をまきを。君の下を御
むじよ道をあじて。漫涇行ふを。あき明の勝八あす袁紹
是非をきくなむ。君の是をすすめ。非を退ぞけ進むよ

禮とあつて。二五をよ法をゆうて。あき文の勝九あす袁紹
虛よ乗とよのを。兵要在あらざ。君の寡をあつて。多々
克兵と用ひゆかと神のと。軍卒あきと特と敵人々農
夫と武の勝十あす。君のをと。十勝あす袁紹もんざむ
じきらん曹操の曰御辺がいのふ。ヨミをめく及んあられぶ
いま袁紹を伐んへいよ。郭嘉が曰呂布都ぢうた徐州よあ
りや心腹の患。いま袁紹兵をあもと。遠く北平の公
孫瓌をひよ行あう。此間よを呂布と平らげ。其の後よ
袁紹を伐ふへまく。う頭じく袁紹と伐ん。仕ふ。呂布
よもよだ。虚よ乗と都と窺。曹操作げふを。よろこび。夜よ
ひよひよ苟或を。曰く。你の袁紹が虚実をあつたら



荀彧曰今日使來りと兼玉り。がいまき其故と聞ひふと曹操まみち書簡をひて見せしむるよ。荀彧やくらの書簡の面あきよそかく無禮る。曹操う曰こそを常々袁紹と伐人どもかへども力の足ざるを患る。荀彧やくら古の成敗へまよ。其才あきが弱いといえどもかくら強いといふ。そんぞ其人あらざれば強といふをもかる。荀彧弱い高祖項羽乃存亡あきる。いま君と天下と争へたもの袁紹一人きり某と袁紹をくわ外寛くと内忌人をもせといえども。くわ疑がひある。親疎をもて君の明達よと拘らざ。唯才のよろじにとまつゞ用ひかず一度勝る。袁紹の運重より決斷は事多後悔。君は大車と断ト変

忘て窮り。あを禦勝り袁紹の軍を御すと寛く。法令ひそひそ。士卒をすとひえども実の用。よも足らず。君の法令ばく。小明らほ。賞罰正しく行ふ。あ。士卒寡といえども。まえ命とそん勇を。武勝り袁紹。累代高位。昇。徳。祿の人。容。従。智。節。名。譽。ある。その用ひらま。士の能をくわ。と問を。もの多く。衣服。君を仁を。やく。人を用ひ。術と推。虚美。と。旌。と。義の士。と。ぐく用ひらま。と。を。願。あを。德。勝。り。かく。の。を。死。四。勝。す。天。子。と。輔。す。義。と。す。と。征。伐。せ。が。誰。う。意。と。順。ひ。る。ごうざ。と。袁紹。が。輩。な。ん。ど。の。足。と。曹。操。が。曰。

信ひとて又豈きと譽りと是足よ及ぶとひえふる。今袁紹を
伐んべつゝ首或ヤテラレ。先づつと。今呂布徐州ニ常ニ野心
とさしもまく。是とまく。袁紹と戰う。かゞ呂布虛ニ乘
都を奪取。あく。書簡をもと。袁紹がんと要へ下。官職
を加え。米千石を合力。彼が公孫瓚と遠く北平ニ戰
ふ。ありじよ。まだ呂布と平げ。禍の根を絶後。よ敵を犯すには
そむき。袁紹を伐れ。滅がさんと掌中。まう。曹操手と
打たれ。笑ひ郭奉孝が機。荀文若が智。割符と合せたるふ
あ。陳平張良をもと。がく。まう。呂布と伐ん。そ
ひもく。小沛の城へ使をほし。劉玄徳。ある事とあらそ。
夜。りけと袁紹が使者と對面。と重くもとる。天子の勅
命。まう。袁紹と大將軍太尉。また。冀州。青州。幽州。
兗州。を。あら。領せ。都の内。是事。と。なす。と。軍兵を借
と。あら。あ。の。兵糧。米千石を送る。と。早く北平を征伐せ
る。じと。使者と回られ。袁紹。びたる。喜。す。が。幽中
の勢。と。も。あと。を。と。北平へ。は。す。を。公孫瓚と合戦。此とを
徐州より呂布。は。と。陳珪。陳登。を。ふ。そ。と。あ。不。と。だ。る。忠
義の人。あ。ほ。こ。あ。わ。い。よ。役。ど。ん。と。置。か。と。朝。夕。を。酒。と。飲
ご。娛樂。と。か。と。陳珪父子。を。あ。た。所。存。あ。ぐ。れ。が。志。が。よ。徳
と。称。と。呂布。う。と。す。役。を。し。と。陳宮。を。よ。す。智。謀。を。され
ば。陳珪父子。が。呂布。と。あ。ぎ。も。ひ。と。曹操。よ。内。通。を。と。し。倍
り。う。そ。う。だ。た。き。禍。と。ひ。と。出。か。ん。と。と。怕。と。あ。と。と。呂布。害。や。け

○陳珪父子言となくには色とよし。狹らひ媚。將軍とりましく。ちるも將軍ある二人と重不ぞ。心腹の大車と儀。今をゆく省りあざぐべ必定滅亡と取あべ。呂布勃然と。怒て曰く。你從言をもうそちの賢人をあつどん。及。維と。荀攸と。荀彧。荀攸若旧日の事と。思ひまく。かうと。首と斬らん。と。四馬。一馬を。陳宮慚愧。一馬を。かうと。出。忠義の心と明す。能さうえつぞ。狹を受へん。と。あられども。いま身を。逢まん。とせ。天子の人の笑ふあらとひそひの内闥に。そ樂す。だ四五騎の手刀。とのとひのと。憂そと。されん。小沛の邊よ。歩ひうた。野を。獵と。走。と。都より。往來の道す。由あらへ。使と。おへ。傳馬と。馳と。通す。もの。あう。維。なまくと。あや。急よ追う。何人のこすよ。曰く。

○今奉相公明命。豈不夙夜用心。備兵微
將寡。不敢妄動。望相公大興王師。到来
備用。爲先驅。呂布乃狼虎之徒。輕則猖
獗矣。備嚴兵整甲。專侍鈞命。

呂布ゆうべのわざよ怒り。曹操賊匹夫ひとも玄徳と約。我
とあはせんをも。まだその使と斬させよ。とき兵を起とひつがら
んと。耶村と使ひ首と刎陳宮械霸王と將すて泰山が強
盜孫淵呂敦尹禮昌稀るんびひ盜ものを若らひ山東ろ
州郡よほきらを。高順張遼と小沛の城よほむけく玄徳と
ひき。宋憲魏統と汝颍の邊よむろを。ごくの條州の界よ
かく。三方となまけをく。此よしもすく小沛へ聞えを。玄徳い
ふせんニ膳とひひ。諸将と計。皆議を。孫乾や急
に都へ早馬と。曹操作もひとをも。然と守と
ゆがれぬ。玄徳がよもと。誰を使とせん。宣すも。人を

出そ曰く某ねがくも行え。諸人あるをこひれがとあらむ。玄徳と
同鄉の人。簡雍字は憲和といふもの。玄徳するまに書簡
と封ド。ねと日えはの。打ちを。ひよと龍旗の用意と。自
ら南の門をと孫乾よ北と守ら。関羽よ西を守ら。張飛
よ東と守ら。糜竺よ糜夫人の兄弟とゆつ。糜芳もよも
中軍と司じうと。妻子子老少もまも。鹿垣逆木とひなう。
敵のまなと情あがまる不ぞ。寄手の多く勢。勢の四方とそつま
ん。新手とへゑく息と。ほせだ。攻たま。玄徳夫倉
のガリ。大音あげと。をすりよ。呂布と仇は。まゆへよ兵と
ばむけと。呼うりゆか。高順あひ。ヤク。你ひも。曹
操と糾事とあつせ。君と害せん。まひのよ。助よ

りと事なまら露見せり。まもる首あびと刀を受よしに
りとまが玄徳默然とて言はし。高順濠を過ぎてを
暮とあるまど戰ひともすかせしむ城中かくまをうと出
るものほ。張遼の西乃門を攻め、關羽内より固て高大倉
のあが。大音あげて你へ張遼もわざや你が人口より尋常
の人をうかがふ。あよそと天よそむか道とまをとて逆臣ろ口
布よ仕うど耻じらを。さとひ是人忠義の志あつたとて。
言ふと關羽もとをかくと。さとひ首となれと
がひよ陣をもふそ。まほも悪口をもふ。張遼も攻めうる。關
羽もおほひて東の木戸の本ほそと人をほほて口をむ
る。張飛寄手の悪口も立腹して門とひらひや打歩たりと

やまと關羽まよ行ひされ。張遼ひもよ東へまよ五張飛と
火とちして戦ひ。もと關羽もとをひをもふぞ。張飛景ふる
んとまよを關羽はとどくと博中を回り。兵よ争ひと固く守
む。張飛やうる。まよをまよ張遼と追蒐て生取んとせ。何
とととよかよし。と關羽やうる。張遼も武藝ふるをホう下す
出だ。まきさんと言葉をやらげて恥じらをば。さとひ順へる
もあつひま戦ひを休ひあつひをうち。もとひへす。張飛あまふ
もほひと。廻りび出づるをば。玄徳もまくねく教言ひ。きび
く門とまからせる。呂布へもうち下邳の城を攻めよ要害
堅固よと急よ落すとあゆひ。兵とのまよと遠及よを。三
がら小沛よむく来る。玄徳もとまく。矢倉のトまよた

呂布 玄徳が妻子と
摩マサ 宝劍と

侍婢



音あがめ。其の後と呂將軍と因縁ありと仇讐。曹操天子の勅
氣をはくえ。我の兵を催せといふ。従うざえがあくへらだら
ゆえよほ簡とほうを。我あんぞ呂將軍もむうとやらせ引害
をあんぞよびりよへば呂布を理とやふもひそな。たゞ圓三たゞ
くろす。急々汲くとせき。みがうら徐州と回。田心按とくべ
らをよ曲日操を敵と受て。はるよ宜よほ三あかひ大將
荀と淮南の袁術が方へはる。ときをよすり大王と婚姻と約
し。一家の好とむきぐんとせしよ。あむまつと一日曹操と出板
き。あまにさへ合戦よるまへ。日比の意よもく。今車と悔
れども甲斐る。ねがうどもう女と送り。たゞひよ唇齒のま
まくわむき。曹操作を破らん。さあぐりりをくもる袁術

もあよ手あうと。圓きよぎを。郝萌むほく回り。兎角息女を
淮南へ送り。そのち文をむきじよをえ。袁術事の變をあ
れやん解ほこいふ。呂布沈吟と。さらよ決せだ。あのとぞ簡雍
おを日よほじよ都と。曹操作を見へ。事の急と告げれた。曹
操諸大將をあほう。やうへ我いま呂布を伐んとあよ。袁術
もく北平へ行され。怕ふよほ。た。劉表と張繡と。まう後よ
あと。虛と同ぶ。都と盤踞えと。と畏る。首攸やうちへ劉
表張繡あらよ敗きたる後されば。いづかうぐく。兵をあ
きまらん。呂布のたけに虎す。も。袁術と一味す。淮泗と縱
横せ。英雄と武士従ふ。い付す。あるも縫とあく。いま勢ひの
小あく。乘る。まらう。狼と歛ふ。曹操いふ。是やなつと旗

下の大軍をとひて。まほ行ひ。小沛の城をとふと。夏侯惇曰
慶幸典三人よ五萬ろ勢をさばけむ。そえ勢をとる。徐州
の界よ著々と高順をと聞く。呂布よ報を。呂布もと追ひ
て傍成郝萌曹性三人よ三百余騎と伏す。高順と助けさ
せられ。小沛の城と三十里あらず。どひて陣ととられ。玄德寄手
のあり。ごとととて。かるべく。曹操がまきの東をくる。あらんと。孫
詭。麻采。李糜勞三人在とどめと城と守らせ。もうちら城と出
て陣をさう。張飛と先陣をとる。関羽と左よ備ゑふ。夏侯
惇が打寄をひどく。鎧をひどく。真光よまき。呂布出よる
よ。勝負をとる。すぐりと高順刀とまかれて。五十余合戦
ひきうちをとく。走りくる。復侯惇をなほし。るせと力とほじと追

萬をもよおさんらす。呂布が大將曹性をうぶとしりよりよ。よひ
ひそ。兵を射。もの矢。夏侯惇が左の眼。あくろれ。夏侯惇
あきを事。をえせよ。かみ。うりよ。矢を抜。鎌目の珠。ことえよ。出
り。大嘗あけよ。あきら父乃精母乃血。あくろくもつべた。ゆ
ほ。まざりと口よひを。嘆。高順。とが打きて。曹性。飛
萬りた。一鎗。と突。あ組。高順急。と打きて。曹性。飛
坐。夏侯惇。目あたてよ。痛。戦。あても。まご。危く
えたり。と。弟。夏侯淵。力と震。をさそひ。李典。呂蒙。一手よ
あ。追。萬を。打。まよ。清。其。まご。引。あら。呂布。味。方。の
勝。た。を。き。つ。み。が。り。馬。飛。と。ま。た。も。ひ。早く。勢。ひ。乘
せ。や。や。ぶ。
と。没。彼。と。み。が。り。關羽。備。う。り。と。萬。高順。と。衆。遼

と云張飛が備え打子萬る玄徳あきとよし。手下の勢を率
えり。まことに戦ふと仕事か。呂布。電光の速く後よりあ
れひそめ。墓を關羽張飛が陣中強んでかゝりの塵とちう
せざる如。玄徳はいよ叫びて擣中へ逃入と仕事へ。呂布を逐る
を追きたる。玄徳壕の邊といひて橋と渡りて内
す門をひらひそく橋と渡る。呂布追まうそ入れて。夫倉
の上する丘のを。玄徳はあくまん正と憚りて。矢と放つ。十
騎あま。木戸口よ立あきびり。命とまく。防を一ヶほる。呂布
はあくまく切あ迫る。是故。門をもろ撃。四方へ走る。そち
とが呂布が大軍みされ全く火と放れ。玄徳までゆうる。妻
子をともなに。騎西の門を落と。呂布をもく。中門を入る。
子とおぬまく。おとおと。引具と車とお座まく。まく。徐
州の城をまされ。若とよと狼藉とあたま。人の妻子とあ婆を
こもとよと。齊うち帶たる宝劍と解とあくへ。是とゆつと切
あく。拌謝し。玄徳の妻子と車と乗。徐州の城へど入る。
呂布へ小沛の城。高順張遼とあそあ。まくら山東兗州
の。まくら張。關羽張飛孫乾。おとさん。よ落。山林身

麻生出ひ。馬の前と拝候とやぐ。玄徳の將軍と兄弟
の交をあそび。義まく大丈夫ありと。人の妻子とあ婆を
もる。玄徳。えど将軍と衡と抗ふ。てよ轍門。轍と射ふ
ひ。思ひて行時もわすれど。將軍ねがく。憐へ垂る。呂布
が自。まきと玄徳。義とひととぞ兄弟たり。ひそう。情ある妻
子とおぬまく。おとおと。引具と車とお座まく。まく。徐
州の城をまされ。若とよと狼藉とあたま。人の妻子とあ婆を
こもとよと。齊うち帶たる宝劍と解とあくへ。是とゆつと切
あく。拌謝し。玄徳の妻子と車と乗。徐州の城へど入る。
呂布へ小沛の城。高順張遼とあそあ。まくら山東兗州
の。まくら張。關羽張飛孫乾。おとさん。よ落。山林身

よせ。ばんそく やくそ とい
と寓ひきよ玄徳の行末と聞こびぬ。

呂布敗走下邳城

玄徳曰。一騎小沛乃城。とびきをか。都。と。まくらば。山のかづら。
と。き。だりあ。よ。孫乾。數十騎。と。ひいそ。た。ぼひ。來。あり。手。と。牠。と。哭。
た。ほ。む。玄徳。嘆。ど。關羽。張飛。が。行。方。と。も。も。り。妻。子。一
族。の。存。亡。と。も。も。り。に。我。ひ。く。生。く。耻。を。さ。う。き。す。口。ひ。き。所。よ
そ。自。害。せん。ひ。い。と。宣。ま。る。孫乾。練。や。や。く。何。条。い。ま。さ。る
す。あ。く。に。諸。人。の。ま。ら。往。往。も。ぬ。と。も。う。た。う。ご。と。兎。毛。角。も。御。思
案。あ。く。し。い。ま。ぎ。何。聞。定。や。く。う。る。ゆ。も。る。む。ひ。ほ。と。あ。く。と。死。ぐ。
哉。の。笑。と。う。る。ゆ。早。く。も。も。よ。多。ま。ま。て。曹。操。を。頼。み。玄
徳。あ。き。よ。徒。が。路。の。日。昇。て。馬。と。あ。あ。け。る。が。飢。は。う。れ。て

村の内より入る。食物をもあわか。田夫野人まども劉豫州のき
たりかふといひ。あらもあく食と献きた。日をぞ暮々と。獵師
の家よ宿し。家主の名と問ひ。いま流落たを。漢室劉
氏の苗裔よ。劉安といひをの。さへひよ劉豫州。まわ
りと得たりといひ。喜びがゆか。山野の禽獸を獵て持
きえんと。あきぬくをともなむ。折節得物ありしが。爲
なきよ。ひきよ女房と斬き殺し。この肉を煮て献たる。それ
とあらば玄德いひ。肉をひよと問ふ。狼の肉。よくいひ。れ
か孫乾ともひよ。あくまと食し。やあくと打立と。廻よひよ。馬
といひ。まんと。厨のうち。一人の女をあわし。と脣のあくの肉
と前取なるあく。まきうれ。が駄ひそもの仔細を尋ねてはじめ



そ女房と煮えと持成すとあつれ。感傷してやまと御土志
の和ど紙よみきれがに。是處こそお果てんす。とくとく。こそよ
都へのおりりへとまくみへ。劉安辞りて曰く。某が老母と養
びたもの。是故とてかく去がましにと。別まへば玄德馬と
もゆきや。梁城よ著るか。時より馬けむり。立ちてかがりる人
馬出未りしらば。人をほしと見せしむ。曹操う大軍も。よろ
あんぞ中軍よ曹操見へ。小沛よ城を。二人の弟妻子
老小をあぐく行方あくなりと。と。老小をあぐく行方あくな
り。玄徳路よ。劉安が女房と者へるよと。語
をよ済とながさ。玄徳路よ。劉安が女房と者へるよと。語
をよかよ曹操その志の切あるを感し。孫乾と使じて。劉安よ
金百両と送らせ。大軍を推す。清北よい。夏侯淵いそぎ
へ。兄夏侯惇が左の眼と射られ。痛えぬで。と。告る
き。曹操都へ送りの。せ。乍侯の兵とて。呂布。消息を
らひ。呂布ちよ。後陳宮。臧霸と泰山の強盗と。知りて
兗州を攻めよと。さらばよと。曹仁よ三千余騎と付て
小沛の城よむし。みがうち。玄徳と。二十万の勢と。卒
山東の界よ。もろよ。蒲闕と。のぞと。見よ。泰山の強盜孫觀
吳敦。尹禮。昌豨。四人三万。余騎よと。陣を取る。曹操躊
ちら。と。とよと。許褚と。真先よと。されば。四人の賊將
ひ区しく馬と。出し。と。ちと。もと。戦ひ。と。許褚よ。斬を
られ。四方へ。さすと。引あぐ。と。曹操あきと見よ。菟毛
を。のぞもと。下知と。る。大軍潮の湧が。おと。蒲闕を。没

付生を討きもの教をきく。右往左往は落と行。あひを
呂布は徐州の城へ回り々小沛の城を敵及びとまひ。も
うりよど見為。陳珪陳登とす。敵と防ぐのはよそと議
し。陳珪はとゞく徐州を守れ。陳登はよそを従ぐ。末れとて
きよよ人馬とと後をひ。陳登ひもよえよ告へ曰く。さるを曹
操東廻の事をもぐ。我亦父子を任せ置こひへり。呂布が
滅亡近付たり。とく曹操は内応を。ま某を小沛へ伴
きひ行ん。某ひそよ計事と見て。呂布も打員て曹
操を追と來る。父ある城とよく守り。靡せと力とある。
えよ。だ呂布と城中へ入る。某期のぞんぐ。身と脱る。その
かうと計事あつときたされば。陳珪曰く。呂布ある城と第一にて。
妻子一族とあらぐ畠置をいんぞ獨事とまん。陳登が曰く。
御心と安へど。某とろととの。外よ移を。と。呂布を
す打ちとまること。又へて。徐州の城へ。四面よ敵を受た
り。曹操を。らの城と第一と目掛け。事の急をふ至て。引く退
ばれやうある。志に。ある城の金銀兵糧と過半下邳の城へう
そへ入る。ある城の危うれと。退ひく下邳の城と。呂
布を。安んじ。曰く。你が教。よが意。よかえり。徐州へ。軍城。あれ
敵をひとよ目ぐべ。よを妻子一族とも下邳の城よ。うつて
べと。宋憲魏統二人よ。金銀兵糧を。下邳の城よ。移さ。小沛と指そ出され。陳珪よ。憚るるゆゑ
とよ返ら。廃坐と計。あらせて。徐州の城と。とく。守り。呂布

回り来らば一矢射とぞ用意する。呂布へかるとどが夢とも知
れ。徐州へ第一の城あれども陳珪と留めるにたまがく安し。早く
小沛の後路をとる。敵を追うちんとて陳登とす追げんと合
せ。半途まで出づる曹操みぞうつ蒲関と没するを忌むるとき
ひそまと蒲關へ行人といふ陳登やうべの將軍を兵と率いて徐
くと来ゆ。某はまだ行々敵を虚実と伺ひ。呂布が曰く。いさき
やへままで行人とぞ。陳登が曰く。泰山の孫觀吳敦お味方よ
従ふといへども回忠の心あり。うぬぐしくまべうだ。呂布大よ近矣。
你はまひとよ忠義の人なり。勞を辞せざるの意。後陣
と按へてまほを。陳登以十騎を引く。蒲關より。陳宮と臧
西朝ある。合戦の事と問ひ。呂將軍をもあそぶ。御辺達と疑ひて。

うぬぐしくある來りぬを。かるく害せらるなどと私怨され。
陳宮もと近ひヤク。我もよと疑ひた。ま曹操が勢さん
もうといふも。ナト。もよと變あらんと料り。もよと。難處
えまよ。合戦をまど。もの故よをあらも。危うむ。呂將軍を
まど。小沛の城をもひよべる。何とよもよ來りぬ。陳登や
うぬよ。御辺と疑ひ。油井も害よ。あひよんと。高櫓
のがり。つどいふ。曹操が大軍をとど。濠の邊をよし。すな。
ひよ内忘の書簡と二通書。や。箭の根を付ね。中
よ曹操が陣へ射あらし。次の日もそれも。ゆんと。陳宮や
うぬ。よの闇へよきを示す。要害よ。あひよんと。高櫓
りよ。呂將軍をもく。小沛の敵を追うちひよまへ。陳登

陳登夜
曹操
陣中へ前章
放



是日。卓見と馬をとて回り。呂布又とやまと某
行。と同士。下按。達。孫觀。呉敦。ホモ。野心をば。もと。今。
曹操を引へん。と。某と。陳宮と。計事をあら。今。ねうえだ。
將軍。と。計。事。を。あら。今。ねうえだ。
將軍。と。計。事。を。あら。今。ねうえだ。
人。我。うき。と。大事。と。あら。再び。行。と。陳宮と。計。と。合せ。今
夜。火の手。と。あげ。と。合。圖。と。せよ。我。あき。と。こく。が。急。よ。き。ん。ぞ。殺。ま
し。陳登。飛。走。り。ひ。と。そ。又。馳。行。と。陳宮。と。よ。び。出。し。曹操。勢
ひ。ち。く。山。と。越。と。及。ひ。ま。と。徐州。の。城。と。圍。ひ。ま。此。處。と。す。
つ。ま。と。も。甲。斐。ほ。ま。と。ま。回。と。徐州。と。も。と。ひ。と。と。ひ。れ。が。陳
宮。ま。と。い。と。膽。と。ひ。や。と。取。も。の。と。ま。と。む。と。薩。蒲。關。と。ま。と。走。り
ま。と。陳。登。の。開。門。よ。や。と。手。と。あげ。と。曹。操。が。勢。を。引。ひ。ま。と。呂

布。かね。と。の。合。圖。と。無。と。ど。て。火。の。手。と。ア。ク。と。手。と。兵。と。返。と。進
み。き。た。ふ。と。暗。さ。と。ら。し。半。途。と。陳。宮。が。勢。と。出。あ。ひ。た。が。い
ヌ。敵。ど。と。心。得。る。ふ。め。死。さ。行。ん。と。戦。ふ。あ。と。曹。操。大。軍。と。引。そ
さん。ぐ。ヌ。蒐。破。り。し。と。呂。布。と。陳。宮。の。勢。り。と。ま。と。討。き。そ。
吳。敷。孫。觀。お。と。行。方。と。あ。り。と。夜。あ。け。と。の。ち。陳。登。が。回。忠。そ。
曹。操。と。引。へ。と。り。と。り。沙。汰。と。れ。ば。呂。布。と。の。あ。う。と。作。え
し。と。討。の。あ。され。る。兵。と。あ。れ。と。陳。宮。と。も。と。蘇。州。と。回。り。城。中。
へ。ん。と。も。と。天。倉。の。う。と。矢。と。放。り。と。雨。の。あ。と。く。ま。と。それ。が。あ
ひ。う。と。驚。く。も。と。糜。竺。城。上。と。立。あ。ら。られ。大。音。声。を。あ。げ。と
呂。布。正。夫。你。詣。ら。と。君。の。徐。州。を。奪。ひ。と。ま。旧。の。あ。と。く。貯
く。と。え。と。何。方。と。落。行。と。お。が。り。る。呂。布。向。と。や。と。陳。珪。へ

主内より廬墓を斬りて曰く。此をもとぞ斬て主となれ。呂布色
ど失る。左右とかへりこそ陳登といふ者すと問ふ。今朝より
行方あきだとあらん。陳宮怒りそやう。常は某が陳とヤセ
し。からびと推してたるえり。あらまよ將軍彼はまよまきを。
某と用ひ西をいま是のむとくるま至りそと。猶迷ひと取て惡
人を尋み。呂布後悔すとも及を以て。鳥かこなまよ小沛と
そとく來む。半途より高順、張遼、程昱である。こ
里。何とぞ来きてと問ふ。高順が曰く。某は小沛の城を守りと防
衛をあ。陳登馬とほしと馳来り君をよ曹操ア。囲まれ
玉へり。多く行とぞいなれ我す。城を守らんといへり。幸まく
て取らぬ。兵を引く。打出す。陳宮やうる。おま旨奴

がとすと。かくは曹操が勢と引入べ。呂布歯とぞいきりと
うる。我をゆ。陳登父子と重い。ゆ。你ホジ知る。ちるよ
玉をとが抜く。曹操は内通を誓言。恨とぞい。小沛と
はて打ひ。陳登の城を猪取。そのち。曹仁が勢と引入を呂
布。う来る。とまじ。み。うち高櫓のおり。大音あげて曰く。呂
布匹夫うよとあよき。我ハ主と漢朝の臣。あよ。你
がお免逆賊。従がん。呂布大に復と。ある賊を殊せん。
我をえどんを安んぜんと。兵を下知と。城を没んと。よ
くまち後す。喊のあを地と。う。おに急。高順を出と。よ
む。一鹿の軍馬。ふりと。見り。真先と。む。頭。豹のふと。
長瀆の虎のぶと。と。うち劉玄徳の弟張飛。夫ハコア。お

て高順と火燒て戰ふ。高順うちの敵を伏馬としと逃
もとる。張飛勝より乗る呂布が備え入勇と震す戰ふ事。
又喊のまゝ四方すりあひや。曹操、大勢潮のあくまくまひ。呂
布小勢みく支らとあくまく東をにじとそられが張飛曹操
がさじと追蒐る。呂布人馬はれや付きもの殺されば。まきさ
ぬよと逃る。一手の勢行先をまえだす。劉玄徳の弟
關羽八十二斤の青龍刀とじうきび反賊いつくへ走る。あうよ
く刀と受よとふたりられが呂布是非よ。馬とまくと戰ふ。
後より張飛雷の落くもあく。ふりりと蒐よしと呂布あ
つまねとおじや下邳の城へとくる。侯成兵を引いて出ひく。救
く城中へと入る。關羽張飛丘を收め。一慶よあはす。互

よ失散の事とものぞり。關羽はまきよ。小沛より没落と海
州よかれ。あの消息とまじて來きうとひよ。張飛は毗陽山
へ逃りて山賊をほじ居る。あのよーときじて來きうといふ。
曹操よまくと禮とほじよ。ほじよ玄徳よまくと。こそよ徐州
の城よ入れて麻栗莖歩むと。妻子子一族の恙うく。城中よあよ
りと居る。玄徳がどうするかと近ちよひよ。陳珪。陳登きな
よ。曹操作宴ともわけと賀とづ。前座より中座よ。左よ
玄徳。右よ陳珪。文武の諸将と商ひよほらね。あひよ。陳珪
父子、う功と称揚りよ。十縣の禄ともくへ陳登ハ伏波將軍と
き。そのうち下邳の城とほくまくとを儀きよ。程昱や呂布
布入よ敗れよ。ヨガまよ下邳の小城と頼みよ。口ひゆくと及ぶ

へ。あづまり滅がづり急。ヨハ。の。うきとぞれをもつと。かよ
らを。余と。うほん。ト。淮南の袁術と。一つある。まくを。由。しま
え事。ある。おほし。大将と。そそぐ。淮南の路條と。守ら。外袁術
を。併え。内。呂布と。妨。が。一。め。い。そ。や。呂布。う。大将。ヨ。臧霸。孫觀
どり。畏。れ。を。あ。ゆ。を。山東。又。陣。を。と。む。是。ま。用。る。ゆ。く。と。き
叶。ほ。曹操の。曰。お。き。よ。我。意。よ。あ。へ。り。山東の。路。ふ。我。さ。ぐ
ら。中。う。ん。淮南の。路。條。ひ。玄德。よ。守。り。ふ。へ。玄德の。曰。丞相の。尊
命。あ。よ。敢。や。遣。て。ん。や。と。そ。は。だ。の。日。手。配。と。ほ。糜竺。簡雍。を。と
ど。み。く。徐州。と。守。ら。せ。お。づ。く。関羽。張飛。孫乾。と。引。連。と。淮
南。の。路。を。お。づ。く。ゆ。き。こ。邳郡。を。ば。し。と。寄。ゆ。

繪本通俗三國志二編卷之四終

